

都市再生整備計画事業 事後評価シート(原案)  
泉町地区

令和5年12月

宮崎県串間市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	宮崎県		市町村名	串間市		地区名	泉町地区			面積	2.44 ha	
交付期間	令和3年度～令和5年度		事後評価実施時期	令和5年度		交付対象事業費	457.1		国費率	0.4		
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		基幹事業		地域生活基盤施設(イベント広場)、高次都市施設(地域交流センター(市民交流施設))							
			提案事業		事業活用調査(隣接空地活用調査、事業効果分析調査)							
	当初計画から削除した事業		基幹事業		事業名		削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響			
			提案事業		-		-		-			
	新たに追加した事業		基幹事業		高質空間形成施設(モニュメント)		【第1回変更時】地元中学生からの要望を受けて、事業追加。【第2回変更時】建設工事費の増額に伴う事業費の変更。		影響なし			
			提案事業		地域創造支援事業(立地適正化計画策定)		【第1回変更時】計画内容に関連性の高い本事業へ移行した。		影響なし			
交付期間の変更		当初	令和3年度～令和5年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		-					
		変更	変更なし									
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)	予定時期	
	指標1	'地域のまちづくり'の満足度の向上	%	6.9	H30	18.0	R5	-	15.9	×	あり なし	令和6年9月
	指標2	地域活性化拠点の来場者数の増加	人/年	22,861	R1	294,000	R5	-	451,681	○	あり なし	令和6年4月
指標3	イベント回数の増加	回/年	11	R1	24	R5	-	30	○	あり なし	令和6年4月	
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度※1	達成見込み	(総合所見)	予定時期	
その他の数値指標1	'地域のまちづくり'の満足度の向上(10点満点中)	点	4.80	R3	/	/	-	4.72	/	満足度、認知度の合計値「地域のまちづくり」の満足度は若干低下(従前4.80→今回4.72)したものの、前計画時において実施した各種事業(旧吉松家住宅活用事業、仲町通りにおける舗装の高質化等)の整備効果は、地元の各種活動により維持されていると考える。	-	
4) 定性的な効果発現状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民交流スペース等が、住民の集合場所・待合場所になっており、道の駅自体が観光面だけでなく、地域住民の日常生活における中心的な場所になっている。</li> <li>当該地区周辺における過去2年間の新規出店は、クレープ屋、路面電車の駄菓子屋等々であり、新たな賑わいを演出している。</li> </ul>											
5) 実施過程の評価			実施内容				実施状況				今後の対応方針等	
	モニタリング		-				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				-	
	住民参加プロセス		イベント広場整備により、市民・行政協働による数多くのイベント開催を目指したが、令和4年度には25回開催され、道の駅の集客効果も相まって、新たな活動拠点としての役割を担っている。				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 市民の愛着や利用頻度が、年々高まる施設になるような取り組みを実施する。	
	持続的なまちづくり体制の構築		道の駅をはじめとする地域振興施設の民間による運営を目指した結果、串間商工会議所をはじめとした市民組織によるイベント開催や地域課題を解決する共助のための住民団体の発足等、地域の持続性を担保する実働部隊が定着し始めている。				都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 地域連携組織や商工会議所等の積極的な活動を推進し、市は側面的な支援を図る。	

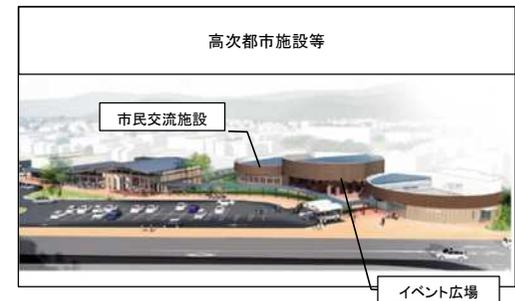
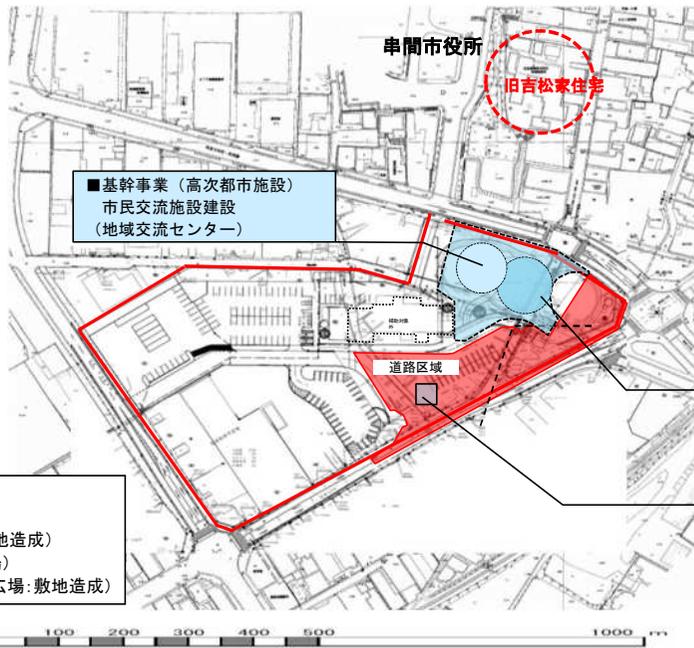
## 様式2-2 地区の概要

### 妻北地区 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値	
大目標:住む人や訪れる人がふれあう にぎわいとるおいのあるまち ~「道の駅くしま」を核としたまちなかの再生~ 【目標1】道の駅を拠点として、旧吉松家住宅などの地域内に点在する地域資源を活かし、各地域資源の市内外での認知度を高めるとともに、訪れる人の興味・きっかけがあふれるまちづくりを進める。 【目標2】住む人や訪れる人にとって、うるおいと憩いのあるまちづくりを進めるとともに、大規模災害時などへ対応できる防災機能を整えた安心感のあるまちづくりを推進する。 【目標3】市民と行政協働の取り組みにより、『串間』の中心市街地にふさわしいにぎわいを創出し、来訪者の本市を代表する観光地への回遊性を高める情報発信や市内周辺地域とのネットワーク拠点となるまちづくりを進める。	'地域のまちづくり'の満足度の向上	%	6.9 H30	18.0 R5	15.9 R5
	地域活性化拠点の来場者数の増加	人/年	22,861 R1	294,000 R5	451,681 R5
	イベント回数の増加	回/年	11 R1	24 R5	30 R5
	'地域のまちづくり'の満足度の向上(10点満点中)	点	4.80 R3	-	4.72 R5



- 提案事業 (地域創造支援)
- ・ 立地適正化計画策定 (事業活用調査)
- ・ 事業効果分析調査



- 第1期整備(令和2年度)
- 高次都市施設(情報施設)
  - 高次都市施設(市民広場:敷地造成)
  - 地域生活基盤施設(防災広場)
  - 地域生活基盤施設(イベント広場:敷地造成)

- 基幹事業 (地域生活基盤施設) イベント広場建設

- 基幹事業 (高質空間形成施設) モニュメント

- 都市再生整備計画の区域
- 基幹事業
- 提案事業

まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・満足度、認知度の合計値「地域のまちづくり」の満足度は若干低下(従前4.80→今回4.72)したものの、前計画時において実施した各種事業(旧吉松家住宅活用事業、仲町通りにおける舗装の高質化等)の整備効果は、地元の各種活動により維持されていると考える。ただし、「地域の史談」については、認知度向上には至らなかった。また、旧吉松家住宅は、市直営となり、イベントが開催できず、100人/月程度まで来館者数が減少している。</li> <li>・さらなる認知度(郷土愛)向上にむけたイベント活動、周知啓発活動等を継続的に実施していく必要がある。</li> <li>・道の駅開業以降、イベントが盛んに開催され、駐車場不足やハイ・シーズンにはイベント予約が重複し、断念せざるを得ない事態が生じていることから、道の駅周辺部におけるイベント用地もしくは駐車場用地の拡張整備に向けた民意が高まっている。また、道の駅がにぎわっている一方で、国道220号の道の駅とは反対側に空き店舗が目立っており、景観上の課題となっている。</li> </ul>
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>(効果持続策)</li> <li>・集客アップに向けた取組の展開として、東九州自動車道の開通を見据えた近距離客をターゲットにした取組や周遊観光の促進と新たな観光需要の拡大に向けた取組、SNS等によるタイムリーな情報発信を展開する。</li> <li>・住民・行政協働による取組のより一層の展開として、道の駅「くしま」の指定管理者や各種団体等が連携し、中心市街地全体に来街者が回遊する仕組みの構築や取組の実施を支援する。</li> <li>(改善策)</li> <li>・「旧吉松家住宅」を核としたまちづくりの展開として、来訪者をもてなす意識や地域に対する愛着を高めていただくため、関係団体による活動に対する支援や地域住民に対する観光に対する取組周知を図る。</li> <li>・道の駅「くしま」隣接地の空き地利用に向けた取組及び道の駅周辺の空き店舗等による景観への影響に対応する景観形成策の検討を行う。</li> </ul>